

生協における 食品ロス削減の取り組み

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（日本生協連）とは



- 概要： 日本生協連＝各地の生協や都道府県別・事業種別の生協連合会が加入する全国連合会です。
- 設立年月日： 1951年（昭和26年）3月設立。
- 会員数： 302の生協・連合会が加入
- 事業高： 4,411億円
(2023年度末時点)



日本生活協同組合連合会（日本生協連）とは



● 主な事業と活動

1. 会員生協への商品供給などに関わる事業

- ① **コ－プ商品**などの開発と供給
- ② 通販事業
- ③ 商品事業に関わる品質管理、物流、情報システムなど
事業基盤の開発や運用など



2. 生協の全国組織としての取り組み

- ① 生協の**全国的な事業・活動方針策定**
- ② 国内・国外の**各種協同組合・諸団体・行政などとの連絡・調整**
- ③ 多様な生活に関わる**社会的テーマについての意見発信**など



3. 会員生協への支援の取り組み

- ① 連絡・調整・交流
- ② **各種事業や組合員活動への支援**
- ③ 会員生協の組織運営・法令順守支援



▲ 令和6年能登半島地震発災後に設置された「コ－プ被災地支援センター」での活動に全国の生協から参加した職員

生協の2030環境・サステナビリティ政策と食品廃棄物目標



● 生協の2030環境・サステナビリティ政策

＜政策のスローガン＞

- すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

＜「10の行動指針」と「2030目標」＞

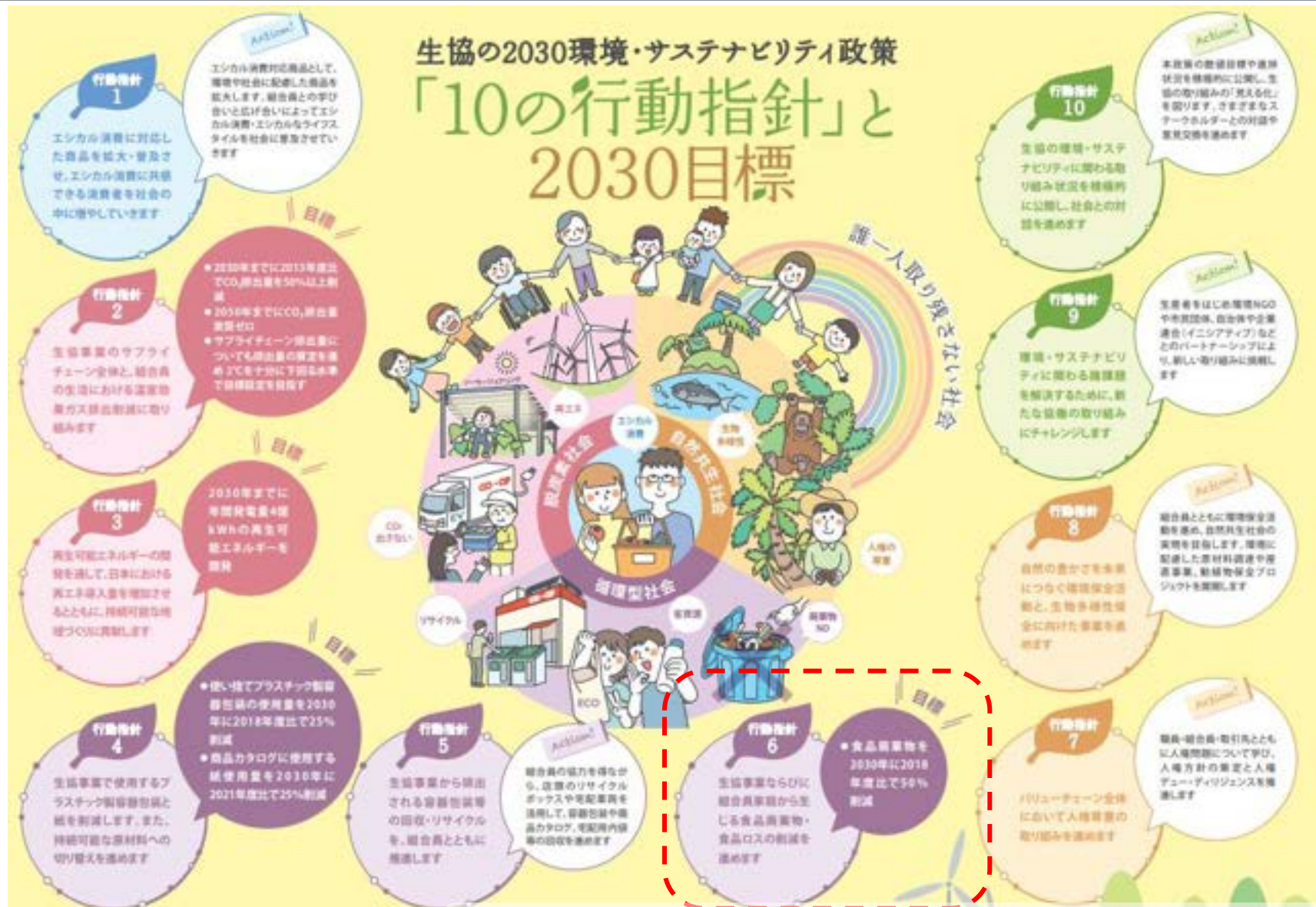
- 政策は、具体的なアクションプランである「10の行動指針」と、2030年にありたい姿をイメージして設定した「2030目標」によって構成されています。
- 食品廃棄物・食品ロス削減の行動指針は、「生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます」と設定し、2030目標として「食品廃棄物50%削減（2018年比）」を定めています。



● 食品廃棄物・食品ロスに関する行動指針の目標・モニタリング指標

カテゴリー	10の行動指針	全国生協の2030目標	モニタリング指標、KPI
省資源・資源循環の取り組み	⑥生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます	食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減	✓ 食品廃棄物発生量 ✓ 食品リサイクル率

生協の2030環境・サステナビリティ政策と食品廃棄物目標



2025年度の進捗（2023年度実績）

カテゴリー	10の行動指針	全国生協の2030目標	モニタリング指標、KPI
省資源・資源循環の取り組み	⑥生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます	食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減	✓ 食品廃棄物発生量 ✓ 食品リサイクル率

●【2023年度実績（2018年度比の削減量）】

※37生協の実績から

- 食品廃棄物発生量 合計：26,159t（19%）
→供給高当たりの処分量も27%削減

※35生協の実績から

- 食品リサイクル率 中央値：78%
→堆肥化、飼料化、油脂化など
- 食品廃棄物の処分量 合計：7,988t（14%）
→供給高当たりの処分量も22%削減



日本生協連の取り組み

●食品ロス削減貢献商品の開発



→25年6月頭時点で、12品を発売中です。

日本生協連の取り組み

●CGF/JSLG食品廃棄WGとして、食品ロス削減月間での発信

10月の食品ロス削減月間に、CGF/JSLG食品廃棄WG企業の協働の取り組みとして、消費者向け取り組み周知を目的に、SNS(X、Instagram)での発信を行いました。

Instagram(ストーリー)



https://www.instagram.com/coop_goods/

X



https://x.com/JCCU_PR

日本生協連の取り組み

●ごちそうさまチャレンジ

組織内の食品ロス削減意識向上を目的に、「フードドライブ」
「食品ロス削減川柳・アイデアコンテスト」を実施しました。

2025年02月14日

フードドライブ活動を実施しました

日本生協連では、2025年1月20日～31日にわたり、日本生協連で働く職員に呼び掛け、拠点事務所（渋谷、新宿、麹）にてフードドライブ活動を実施しました。

フードドライブとは、家庭で余っている食品を持ち寄り、地域の生活困窮者支援団体や福祉団体、子ども食堂などを通じて食料支援を必要としている方にお渡しする活動です。

今回、日本生協連の事務所がある「渋谷区」を拠点に地域課題解決にむけて活動されている「認定NPO法人フードバンク渋谷」様のご協力のもと、フードドライブ活動を実施しました。

職員より、最終的に菓子や飲料、レトルト食品など、合計485点、重量で約135kgと、大変多くの食品が集まり、2月6日フードバンク渋谷様にお渡ししました。

お渡しした食品は、支援を必要とする約300世帯の方にお渡しされる予定です。



集まった食品の一部



フードバンク渋谷のご担当者さまへ

日本生協連HP : https://jccu.coop/info/announcement/2025/20250214_01.html

好物を
隠しておいたら
期限切れ



★金賞★

誰もが一度は経験した
ことがあるのでは...
共感しました。

もったいない
最後のひとくち
福来る（ふくきたる）



★銀賞★

あと一口、をやさしい言葉
で後押ししてくれていて
嬉しくなりますね。

テレワーク
昨日の残りも
片付けます

★銅賞★

今時の風景を
上手に詠んでいるなあ、
と思いました。

てまえど
親の姿で
子も学ぶ

★銅賞★

家庭での食をめぐる風景
がほほえましいですね。

ロス減らせ
腹におさめよ
物価高

★銅賞★

物価高という最近の
情勢に上手につなが
ているのいいと思い
ました。

会員生協の取り組み

●食品リサイクルループ（コープしが）



野菜くずはコープしがの子会社「ハートコープしが」でたい肥化し、そのたい肥を活用して栽培した葉物野菜をコープしがの商品として出荷しています。

●生ごみ処理機の導入（コープさっぽろ）



店舗から排出する生ごみの削減を目的として、生ごみ処理機の導入を進めています。

ごみ処理に伴うコストの低減だけでなく、ごみの運搬時や焼却所での燃焼時に排出されるCO₂の発生を抑えることにも繋がり、環境にかかる負荷を減少させることができます。

これまでに生ごみの廃棄量を60%削減しました。

会員生協の取り組み

●ごちそうさま365日アクション（パルシステム連合会）



パルシステム連合会では、組合員が食品ロスについて考え、行動することを目的とした取り組みである「ごちそうさま365日アクション」を行いました。

期間内に提示されたアクションを行うとユニセフへの寄付につながり、世界の栄養不良の子どもたちに治療用ミルクを届けるために活かされる企画などが展開されました

●規格外農産品を活用した商品開発（コープこうべ）



コープこうべでは、生産者や食品会社と協力し、規格外となり廃棄されていた「ほうれん草」を有効利用して新たに商品を開発しました。

試作品ができた段階では、組合員からも意見をよせてもらい、さらに試行錯誤した結果「ほうれん草ちぎり」が誕生しました。

会員生協の取り組み

●フードドライブの実施（全国54生協）



画像提供：おかやまコープ（フードドライブ）



画像提供：コープ東北（コープフードバンク）

店舗、
宅配センター、
店頭イベント等で実施
→中央値は年間で

3tでした。

●フードバンク等への食品提供（全国57生協）

生協のなかには自らフードバンクを運営しているところもあります。
提供量の管理単位はさまざまですが、重量（トン）で集計している生協の
食品提供量の合計は218トン（2022年度は215トン）でした。

●その他 取り組み

事業：発注精度の向上、適切な値引き、少量規格品、恵方巻など行事商品の予約販売推進
家庭：組合員参加型の食品ロス削減企画や、広報誌・チラシ・動画・学習会などでの啓発